

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270600455		
法人名	社会福祉法人 十和田湖会		
事業所名	グループホーム きゃんぱす		
所在地	034-0041 青森県十和田市大字相坂字小林76-5		
自己評価作成日	令和4年8月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目 20番 30号		
訪問調査日	令和4年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日常生活や共同生活の中で、簡単な家事や調理をできるだけ一緒に行います。散歩を通して、菜園で育てている野菜や花の成長を見守ったり、収穫して食材として活用したり、年に一度の収穫祭に提供する等、楽しみを得られるよう工夫しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナ禍でもホーム内にこもらずに、家族の許可を得て、花見やさくらんぼ・イチゴ・ぶどう狩りに出かけ、気分転換を図っており、職員は1対1の配置とし、丁寧に対応している。ホーム独自に毎月の訓練(火事、災害、エスケープ、総合訓練)を行って災害に備えている他、地域消防団の理解・協力も得られている。ホームではその人らしい暮らしを支え、利用者の持てる力を引き出せる支援を目指し、日々のケアに努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は職員が常に目に入る所に掲示し、職員会議でも議題に上げ、確認・共有している。	地域密着型サービスの役割を理解し、その人らしい暮らしを見守り、持っている力を引き出せるよう支援することを理念とし、ホーム内の随所に掲示して共有している。職員は理念に立ち返り、日々のサービス提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため地域と交流を図ることができていないが、広報誌の配布や町内会の活動を通し、交流を図るよう工夫している。	コロナ禍では多くの事を自粛しているが、広報誌を回覧板に入れたり、町内の清掃活動に参加する等、できる限り交流を図れるように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため活かすことができていないが、今まで支援してきた支援方法を今後も活かしていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面でのやり取りであるが、逆に御家族様との共有事項が増え、助言や要望を聞き入れやすくなり、サービスの向上に活かしている。	コロナ禍の現在は、書面を送付して運営推進会議に取組み、メンバーからの意見・感想の返信をまとめて会議録を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の書面を通して意見や助言をいただいたり、必要時には随時、連絡して確認を行っている。	コロナ禍の感染状況や運営推進会議の開き方、利用者のマイナンバーカード作成に関する助言等、日頃から行政との連携を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行動制限がないよう、日頃からさりげなく見守りを行い、安全確保に努めている。また、3ヶ月に一度、身体拘束委員会において、事例検討も含めた内容を話し、意見を出し合い、適切なケアに取り組んでいる。	身体拘束は行わない姿勢で、日々のケアに努めており、身体拘束委員会で3ヶ月に1回、学習の機会を持ち、理解を深めている。帰宅願望の強い利用者には散歩等で気分転換を図っている他、近隣住民や敷地内の併設施設からも見守りの協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の中で、資料を用いて自分達のケアを振り返り、虐待やグレーゾーンを見過ごすことがないよう、職員間で声をかけ合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に入居されていた方を事例とし、成年後見制度やグループホームに入居した際の必要な情報を学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、グループホームの趣旨をご理解いただけるよう、丁寧に説明している。また、生活状況や想定されるリスクを事前に話し合い、納得いただいてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の要望は、日々の暮らしの中で落ち着いた時間帯に傾聴し、汲み取っている。御家族様には来所時や必要な連絡時に意見をいただいている。	コロナ禍のため、電話連絡で利用者の様子を伝えながら、家族から意見・要望を聞くようにしている。また、ホーム便りに行事写真を載せて、利用者の暮らしぶりを伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議や年に一度の面談の中で話し合いの場を設け、希望や提案、意見を出していただいている。	毎月、職員会議を開催し、ケア検討や勉強会、業務内容等について、職員が意見を出す機会を設けている。出された意見はサービス提供やホーム運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長は管理者や職員からの意見に対し、面談やアンケート等から現状を把握し、ハラスメント予防等にも力を入れ、働きやすい環境に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の中、リモート研修へ参加してスキルを磨き、職員会議において勉強会として報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため同法人内や他事業所との交流を遠慮しているが、定期的に連絡を取り合い、情報交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談を受けた際は、入居希望者・御家族様と直接話を聞く機会を設けている。入居希望者の身体状況だけではなく、自宅での生活状況を考慮し、支援ができるよう耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用前に面談し、直接話を伺う機会を設けている。御家族様には誠意をもって接し、些細な事でも話し合えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望者と御家族様のニーズに対して、何が必要で何ができるかを見極め、柔軟に対応できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の気持ちや感情を理解し、共感・受容している。菜園の野菜等を収穫するところから共に関わり、食事やおやつ作り等を通し、関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の以前の暮らしや思いについて、面会時や電話等の連絡時に、ケアプランの要望とは別に聞き入れ、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍のため以前のように支援できない部分もあるが、県外の御家族様にお手紙を書いたり、電話連絡の機会を設けている。また、飛沫防止シート越しの面会は受け入れている。	親戚・知人の面会や電話を取り次いだり、買い物や美容院、墓参り等、これまでの交流が継続できるように支援していたが、コロナ禍では自粛が求められ、飛沫防止シート越しの短時間の面会や電話連絡等で対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の特徴を把握し、座席に配慮している。穏やかに過ごしていただけるよう、職員が関わり過ぎずに見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居先の関係者に対し、入居者様のこれまでの状況や生活歴、ケアの情報を伝え、環境や暮らし方の継続に配慮していただけるよう働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に意向を聞き、過ごしやすい環境を提供している。日々の会話やその時々思いを把握し、意向の検討・対応を行っている。	利用者の個性や習慣・好みを尊重した声かけを大切に、普段の会話や表情から思いや意向を把握し、職員で共有して、利用者の思いに寄り添うように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様、御家族様よりいただいた情報を基に、個性や価値観等を尊重し、その人らしく過ごしていただけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身が健やかであるよう、日々検討をしている。入居者様の過ごし方は様々であり、社会性やADL維持の観点も重要視し、ケアに当たっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	細やかなアセスメントを行い、入居者様、御家族様の意向や要望に沿ったケアプラン作りを心がけている。様々な意見を出し合い、職員一丸となり取り組んでいる。	理念にある「その人らしい暮らし」が続けられるよう、利用者や家族の意見や要望を聞き、職員間で話し合い、介護計画を作成している。また、利用者の問題点や要望、その原因や背景を把握し、利用者本位の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や情報を共有することで、その時の状況に合った対応ができています。また、プランの実践状況から見直しの必要性も見出し、検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の状況により、他職種から意見や助言をいただき、参考にしている。入居者様が主体であると職員全員が認識し、個々に合ったニーズを取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問販売の移動スーパーを活用している。また、高校の実習生を受け入れ、入居者様との触れ合いも含めた支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様のかかりつけ医に継続的に受診している。定期受診、またはそれ以外の場合でも御家族様が必要時、受診に同伴したり入院の判断等、希望を取り入れている。	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している。また、職員が受診介助している他、必要に応じて家族が同行する場合もあり、また、受診結果を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の個人の体調や病状等について注意深く観察し、記録に残している。受診等において判断を迷う場合は、他部署の看護職員へ相談し、判断を仰ぐこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や急変時にスムーズに情報が共有できるよう、救急搬送シートを作成している。また、入院時は地域連携室へ情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御家族様には入居時や定期的に、重度化や終末期に対して意向を確認している。グループホームで行える範囲をご理解いただき、長く暮らしていけるよう、最大限の工夫、努力をしている。	入居時、重要事項を説明する時に、訪問診療の医師がいないことから、看取り介護の実施は困難であるが、できる限りホームで過ごしてもらい、状態変化に応じて入院となることを説明している。必要な時に利用者や家族、医療機関と話し合い、意向を確認している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施し、繰り返し周知するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画の中で消防署員立ち会いの総合防災訓練を含めた訓練の実施や、災害時の避難経路の確認を行っている。また、地域消防団への協力体制も可能となっている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている他、毎月、ホーム独自の訓練も行っている。また、災害時に備えて、一週間分の食料・水、衛生用品、発電機等をホームに備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が、プライバシーに配慮した声かけや対応を心がけている。	利用者の言動を否定したり、拒否することなく、その人らしさを大切にして、話を聞くように心がけている。また、プライバシーへの気配りや個人情報の保護について配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でさりげなく声をかけ、無理強いせず、入居者様の希望や思いを尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自宅での生活の延長と捉え、個々の生活のペースに配慮している。集団生活の間ではあるが、個々の生活も大切に考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで化粧品を使用している入居者様もあり、それまでの生活をできる限り継続できるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様のできる範囲でお手伝い(洗い物・食器拭き・野菜を切る・盛り付ける)をしている。	給食係(一年毎)が献立を作成し、利用者の好み、菜園で収穫した作物を活かして、利用者の嚙下状況に合わせた食事を提供している。利用者は洗い物や食器拭き、下ごしらえ等を職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	旬の食材や入居者様の嗜好も含め、偏りのない献立を作成している。また、法人内の管理栄養士より、助言指導を受けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア時、口腔内の確認や義歯の状態を観察している。夜間は入れ歯洗浄剤にて洗浄消毒を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を基に、個々の状況を把握している。失敗が多くてもできる限りトイレでの排泄を支援し、オムツは最終手段であることを職員間で共通認識している。	排泄パターンを把握して事前誘導し、日中はトイレでの排泄を大切にしている。また、失敗があっても、静かな声がけで対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材を積極的に取り入れたり、個々のお通じに応じて、水分量を調整している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	湯温は入居者様の好みに合わせている。リラックスをしてゆったりと入浴できるよう、職員が声がけや対応に配慮している。	週2回のペースで利用者の希望(熱め、ぬるめ等)を聞きながら、入浴を支援している。利用者の状況に合わせて、家庭風呂にシャワーチェアを使って対応する等、安全で気持ち良い入浴となるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節等の状況を考え、寝具や衣類の具合を見て気持ち良く休息、または眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を理解できるよう、申し送りや個々のファイルに説明書を添付している。処方の変更があった際は、御家族様にもお伝えし、職員間でも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理師の資格を取得している入居者様には調理の下ごしらえを、また、畑が好きな入居者様には菜園の収穫等、一人ひとりに合った役割を見出している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響は大きいですが、天気の良い日は園庭の散策を行い、気分転換を図っている。また、御家族様の同意を得て、外出行事も出かけられるよう支援している。	コロナ禍でも、できる限りホーム内にこもらずに、花見や果物狩り等、家族の許可を得て出かけており、その際は職員を1対1で配置し、丁寧に対応している。また、園庭の散歩等を行い、外の空気に触れられるようにし、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時からお金を自身で保持しないと不安な入居者様もあり、御家族様の同意を得て本人が所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	県外にお住いの御家族様とは手紙のやり取りや職員が電話をかけるお手伝いを行い、交流を図る支援をしている。お正月には年賀状を送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるよう、所内の装飾を工夫している。御家族様が定期的にご自宅の庭に咲いた花々を持参されており、入居者様が観賞し、楽しんでいただいている。	利用者はホールの食卓テーブルやソファで思い思いに過ごしている。床暖とエアコンを設置し、加湿器を使って、適切な温湿度を調整している。また、装飾係がホーム内の飾り物を工夫し、季節感を大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の関係性に配慮し、快適に過ごしていただけるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様の馴染みの物や思い出の品、好みも含め、一人ひとりに合った居室作りを行っている。	使い慣れた物を持ってきてもらうように働きかけている。茶碗や箸、椅子、家族写真等が置かれており、その人らしい居室で安心して暮らせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッドの位置や高さ等、些細な事でも入居者様のできる力を活かすような物の配置や安全に考慮した環境作りに努めている。		